

### 難聴者などを支援

要約 奉仕員養成講座を開催 福岡市

福岡県前原市では今月31日まで、病气や事故、高齢による難聴者や中途失聴者に対し、会合や会話の内容を文字で伝える「要約筆記」の奉仕員養成講座が実施されている。

同講座は県難聴者中途失聴者協会が年一回実施しているもので、同市では初の開催。講座の市内開催を働き掛けてきた市議会公明党の笹栗純夫議員は今年3日、会場となってい



要約筆記奉仕員養成講座の反響などについて聞く笹栗議員

の講習が行われた。

講義を受講した人からは、「難聴者が手話ができて」と勘違いしていた「補聴

る市健康福祉センター「あごら」を訪れ、講座の様子を視察するとともに、参加者の反響などについて話を聞いた。

難聴者や中途失聴者の中には手話が使えない人が多く、意思の疎通が十分に図れないことが社会参加の障壁になっている。このため、コミュニケーション手段として要約筆記によるサポートが重要視されている。

この日の講座では、オーバーヘッドプロジェクター(OHP)を使用し、書いた文字を映し出す「手書き要約筆記」の実習が行われ、読みやすく、理解しやすい文章の書き方など

3月議会で、「中途失聴者の社会参加を可能にするためにも重要」と訴え、要約筆記奉仕員養成講座の市内での開催を求めている。